



Livestock and Farmland

- 家畜と農地の管理研究会 -

福島第一原発被災地域における約2年に及ぶ 牛の調査・研究経過をシンポジウムにて初公表

家畜と農地の管理研究会 2014年公開シンポジウム

福島第一原発事故

帰還困難区域で生きる牛が教えてくれるもの

- 農家と研究者たちの挑戦から見えてきた未来 -

【日時】 2014年7月26日（土）開場12:30 開催13:00～17:00

【会場】 東京大学 医学部教育研究棟14階 鉄門記念講堂

東日本大震災に継続して生じた東京電力福島第一原子力発電所事故から3年以上が経過しました。被災地の外では事故に対する記憶の風化が進みつつある一方で、福島農・畜・水産物に対する風評は根強く残っており、被災地の「復興」は遅々として進んでいません。

現在、家畜と農地の管理研究会のプロジェクトに参加している12戸の農家では、旧警戒区域内6カ所の牧場に約280頭の黒毛和種牛を継続飼養しています。農家の方々は片道1時間以上かけて仮設住宅から牧場に通い、愛情あふれる飼養管理をされていますが、しかし、これらの牛は繁殖が禁止され、肉として出荷することもできません。

本研究会は「復興支援」を目的に掲げ、東日本の大学の研究者を中心に、日本獣医師会のバックアップで結成されました。本プロジェクトは、被災地に生きる牛の健康状態や、農畜産業を取り巻く現状の調査・研究を、被災した畜産農家と地元獣医師とともに、放射能汚染の最前線でひとつになり取り組む、今の福島でなければできない世界初の研究です。

チェルノブイリ原発事故の際も、世界から注目が集まり、多くの研究が行われました。しかし低レベル被ばくの影響について、議論はあるものの科学的データは残されていません。福島は後世のための重要な研究の場として注目されており、特に今回、大きな動物の放射性物質の体内分布、体内動態のデータが世界で初めて得られています。

今回のシンポジウムでは、本研究会がこれまでに行ってきた約2年に及ぶ調査・研究の経過を公表し、被災地で力強く生きる牛の存在および継続研究・調査の意義を世に問いたいと考えています。是非、会場に足をお運びいただきますよう切にお願いいたします。



<本件に関するお問い合わせ> 一般社団法人 東京電力福島第一原子力発電所の事故に関わる家畜と農地の管理研究会
事務局：担当 大谷 090-2023-9353 Email: info@liffn.jp HP: http://liffn.jp

【主催】 一般社団法人 東京電力福島第一原子力発電所の事故に関わる家畜と農地の管理研究会
(研究者所属大学：岩手大学、北里大学、東北大学、東京大学、宮崎大学、サウスキャロライナ大学)

【共催】 人と動物の共生を支援する会

【後援】 公益社団法人 福島県獣医師会、株式会社ワールドウォッチジャパン、株式会社ラジオ福島、株式会社福島中央テレビ

家畜と農地の管理研究会 2014年 公開シンポジウム

福島第一原発事故

帰還困難区域で生きる牛が教えてくれるもの

- 農家と研究者たちの挑戦から見えてきた未来 -

開催日時

2014年
7月26日 (土)

開場12:30
開催13:00~17:00

開催場所

東京大学 医学部

医学部教育研究棟14階
鉄門記念講堂
東京都文京区本郷7-3-1

参加費500円 (学生無料・学生証をお持ちください) ※参加費は牛の餌代などに使わせていただきます。
[参加申込]会場にて直接参加登録をお願いいたします。なお、席に限りがございますので、参加希望の方はできるだけ事前に事務局へご連絡ください。
お問い合わせ[E-mail] info@liffn.jp 詳しくは[ホームページ] <http://liffn.jp/>

【総合司会】 佐藤 洋

岩手大学 農学部共同獣医学科 動物医学食品安全教育研究センター (FAMS) 特任教授

第一部

■ 基調講演

唐木 英明 氏 食の安全・安心財団理事、東京大学名誉教授

広川 泰士 氏 写真家、東京工芸大学芸術学部教授

第二部

■ 福島第一原発被災地域における研究成果

1. 研究会の今までの活動と研究概要

岡田 啓司 岩手大学 農学部共同獣医学科 准教授

2. 高放射線量帰還困難区域における総合調査報告

- [1] 空間線量と土壌放射能から見えてきたもの
- [2] 牛の栄養および行動と被ばく線量の季節変動
- [3] 牛のからだから見えてきたもの
- [4] セシウムの生体内分布と季節変動

和田 成一 北里大学 獣医学部獣医学科 准教授
岡田 啓司 岩手大学 農学部共同獣医学科 准教授
佐々木 淳 岩手大学 農学部共同獣医学科 助教
佐藤 至 岩手大学 農学部共同獣医学科 教授

3. 旧警戒区全域における研究報告

- [1] 放射性物質の体内動態と安全な畜産に向けての取り組み
- [2] 20Km圏内で事故前後に出生した牛の精巣構造
- [3] 牛の白斑の生じた原因

磯貝 恵美子 東北大学大学院 農学研究科 教授
大澤 健司 宮崎大学 農学部獣医学科 教授
佐々木 淳 岩手大学 農学部共同獣医学科 助教
岡田 啓司 岩手大学 農学部共同獣医学科 准教授

第三部

■ 総合討論

「農家の現状と意思、今後の地域復興、被ばくの安全性評価のための継続研究」

【主催】一般社団法人 東京電力福島第一原子力発電所の事故に関わる家畜と農地の管理研究会
(研究者所属大学: 岩手大学、北里大学、東北大学、東京大学、宮崎大学、サウスキャロライナ大学)

【共催】人と動物の共生を支援する会

【後援】公益社団法人 福島県獣医師会、株式会社ワールドウォッチジャパン、株式会社ラジオ福島、株式会社福島中央テレビ

家畜と農地の管理研究会 2014年 公開シンポジウム

福島第一原発事故

帰還困難区域で生きる牛が教えてくれるもの

- 農家と研究者たちの挑戦から見えてきた未来 -

開催日時

2014年
7月26日 (土)

開催場所

東京大学 医学部

医学部教育研究棟14階
鉄門記念講堂
東京都文京区本郷7-3-1

開場12:30

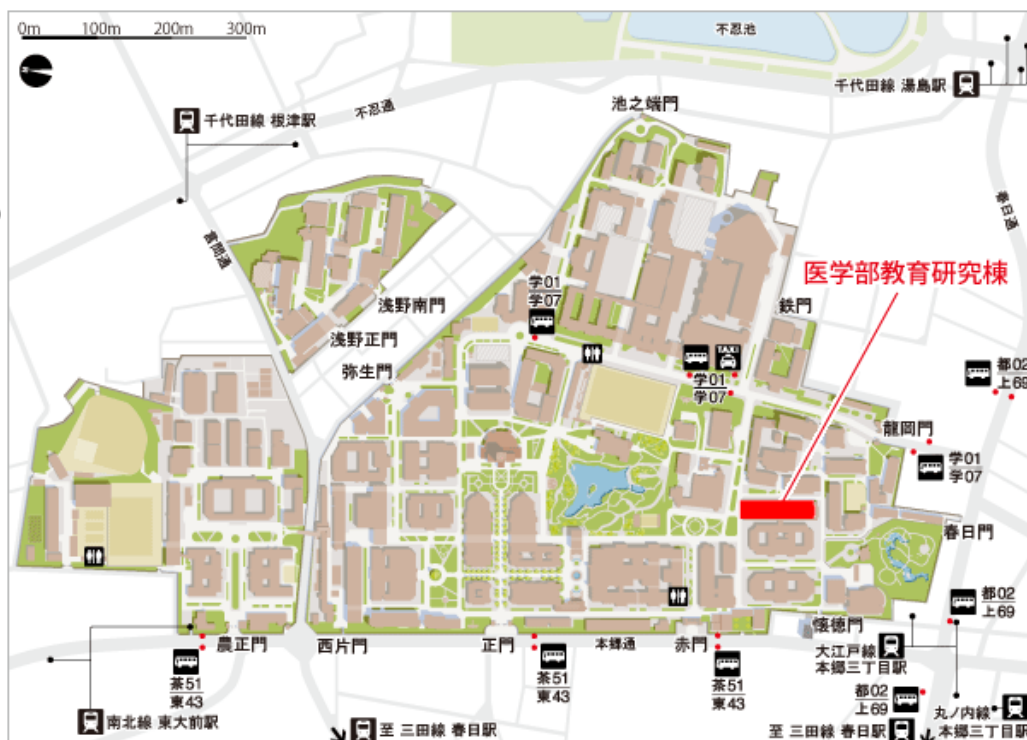
開催13:00~17:00

参加費500円 (学生無料・学生証をお持ちください) ※参加費は牛の餌代などに使わせていただきます。
[参加申込]会場にて直接参加登録をお願いいたします。なお、席に限りがございますので、参加希望の方はできるだけ事前に事務局へご連絡ください。
お問い合わせ[E-mail] info@liffn.jp 詳しくは[ホームページ] <http://liffn.jp/>

【交通案内】

地下鉄
本郷三丁目駅 (地下鉄丸の内)
徒歩8分
本郷三丁目駅 (地下鉄大江戸線)
徒歩6分

※会場へは、赤門から
キャンパス内に
越しいただいたほうが
わかりやすく近いです。



一般社団法人 東京電力福島第一原子力発電所の事故に関わる家畜と農地の管理研究会 2014年 公開シンポジウム参加申込

参加申込

(ふりがな) 氏名または団体名	
参加人数	シンポジウムへの参加 () 人
FAXまたはE-mail	

参加申込書をご記入の上、FAXまたはE-mailによりお申し込みください。受付票は発行しません。
FAX:03-5549-2562 *FAXの場合は切り取らずにお送りください。

*ご記入いただいた情報は、本シンポジウム以外の目的で使用することはありません。

<本件に関するお問い合わせ> 一般社団法人 東京電力福島第一原子力発電所の事故に関わる家畜と農地の管理研究会
事務局: 担当 大谷 090-2023-9353 Email: info@liffn.jp HP: <http://liffn.jp>